

## 2023年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

### 2023 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

阿 南 剛 (四谷メディカルキューブ/東北医科薬科大)

この度、JUA/AUA Academic Exchange Programに参加させていただきました。私は、2021年のプログラムにご選出いただいたのですが、コロナによる延期で今年度の参加となりました。2023年4月28日からシカゴで開催されたAUA2023に参加し、1演題ポスター発表を行いました。自分が専門としている尿路結石症や前立腺肥大症のセッションでdiscussionができ、その後、同じ

研究をしている先生方と将来の共同研究などのお話しをすることができました。ポスターを囲んで複数人での意見交換をしたことで新たな気づきを得られ、対面での海外学会の良さを再認識しました。その後、本プログラムで御一緒した関西医大の吉田先生とAUA receptionに参加し、各国のExchange Programの先生方と交流することができました(写真1)。

5月1日にシカゴからペンシルベニア州フィラデルフィアに移動し、2週間ペンシルベニア大学関連の4つの病院で手術見学をしました(写真2)。どの病院もダベンチが複数台あり、すべてダブルコンソールでした。基本はチーフレジデントもしくはフェローが執刀し、上級医が指導していました。ダブルコンソールのため、鉗子の向きや剥離方向など細かい指導がされており、効果的な手術指導、また、手技の細分化にも役立っていると感じました。手術は朝早く、どの病院も7時半入室で、1日でRARP7件、RAPN1件や、URS8件、PNL2件など多数の手術を見学しました。また、尿路再建ロボット手術や小児ロボット手術など多彩な手術も見学することができました。RARPは日帰りか1泊が多く、RAPNでも1泊とのことでした。保険制度の違いもありますが、日本とは異なる部分が多く驚きました。

ペンシルベニア子供病院では、日本泌尿器科学会総会

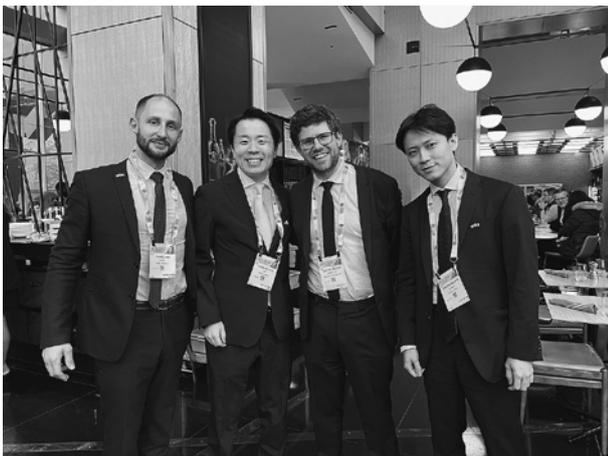


写真1 AUA receptionにてフランスのExchange Programの先生方と。左から2人目が著者、右端が吉田先生



写真2 ペンシルベニア大学病院群の多数の建物。この一帯に子供病院や研究センターなどがあります



写真3 Shukla教授(AUA secretary)と手術室で、ご自宅にもご招待いただきました



写真4 Dr. Caleb (reconstruction が専門) とペンシルベニア病院で。アテンドをしてくださり大変親切でした



写真5 Dr. Kiran (チーフレジデント) と。滞在中に2回もご自宅にご招待くださり、お互いの将来についてたくさん話すことができました

で御挨拶させていただいた、Shukla 教授のロボット手術を見学しました。狭い術野での滑らかな鉗子の動きや術野展開など卓越した技術を学ぶことができました。子供病院は大学病院の真正面にあり、病床 600 床で手術室が 30 室以上ありました。レジデントフェロー含めて小児泌尿器科医が 20 人以上在籍しており、さらにインドやヨーロッパから多数の先生が見学に来ていました。手術後には病棟回診に同行させていただき、普段見ることが少ない小児泌尿器の術後診察のポイントを教えていただきました (写真3)。

ペンシルベニア大学泌尿器科レジデントは毎年 4 人の募集に対して、400 人以上の応募があるとのこと。「アメリカで泌尿器科医になるには、intelligence, effort, luck が必要だ」というチーフレジデントの言葉より、その大変さを実感しました。

週に 1 回、ペンシルベニア大学泌尿器科カンファレンスにも参加させていただきました。大学関連病院が 4 つあるため、カンファレンスは朝 6 時半から web で行っていました。私は自分の研究を発表する機会を 30 分程いただくことができました。100 人以上参加者がおり、大変緊張しましたが、質疑応答も含めて貴重な経験となりました。

Teleflex 社のサポートにて、フィラデルフィアから車で 30 分の距離にある泌尿器手術クリニックを見学する機会がありました。そこでは自身も実施している、前立腺肥大症に対する低侵襲手術であるウロリフトの症例を多数見学することができました (Dr. Sussman, Dr. Mueller)。午前半日で 9 件の日帰りウロリフトが施行されており、手術中に discussion もしていただきました。尿道の形に応じたリフトの位置、角度、ハンドル操作など手技の改善につながる学びを得ることができ、実際に帰国

後のウロリフトの手技に取り入れ、術後経過の改善につながりました。アメリカのエキスパートの手術を見学することにより、術野の作り方、器材の使い方、症例に応じた術式など、多くの学びがありました。新たな手術を学ぶときには、実際の手術を見学することで具体的なポイントやコツが分かるのだと再認識しました。

また、Shukla 教授、Dr. Caleb (写真4)、チーフレジデント Dr. Kiran (写真5) のそれぞれの自宅にご招待いただき、アメリカでの医師の生活など教えていただきました。キャリア形成や今後の目標などを相談することができ、楽しく、有意義な時間を過ごしました。AUA/JUA Academic Exchange で本年度秋田大学に短期留学された Dr. Daniel Lee にも親切にさせていただき、フィラデルフィアの名物である、フィラチーズステーキ (牛肉のサンドイッチ) 発祥の店に連れて行っていただきました。ステーキもパンもボリュームがあり、大変美味しかったです。フィラデルフィアには一人で滞在していましたが、たくさんの先生方が声をかけてくださり、交流を持つことができたおかげで、寂しい思いもなく充実した施設見学となりました。

今回多数の先生方とお話する機会があり、このご縁を大切に、将来的には共同研究など進められるような関係性を築いていければと思います。

最後に、このような貴重な機会を頂き、本プログラムにご推薦いただきました、東北医科薬科大学佐藤信名誉教授に深く感謝申し上げます。また、日本泌尿器科学会国際委員会の先生方ならびに JUA/AUA の関係者の皆様に様々なご調整をいただき、無事にアメリカでの施設見学を行うことが出来ました。心より御礼申し上げます。今後も JUA, AUA の発展に少しでもお役に立てるように尽くして参りたいと思います。